

第1回富山市市町村合併検証委員会 議事録

日時：令和4年5月27日（金）14：00～16：00

場所：富山市役所 8階大会議室

出席者：下記のとおり

1 開会

2 委嘱状交付

3 市長挨拶

4 委員紹介

5 市町村合併の効果や課題等の検証について諮問

市長から委員長へ諮問書を手交。

6 議事

(1) 市町村合併の検証について

事務局から説明。

(2) 市町村合併により変化したサービス・負担等について

事務局から説明。

(3) 意見交換

委員

- ・新市としてのサービスは維持しているが、合併された町村で見ると少し力が弱まった部分もあると思う。
- ・市内で子どもがしっかり育つ環境を整えること、市外から多くの人に来てもらえる魅力ある市にすることが必要である。魅力ある市としてサービスを向上するためには財政基盤がしっかりしている必要で、その点では、今の市政はニーズに応じた良い方向性であると感じる。ただし、地域によってバランスを欠いている部分を誰もが満足できるようにすることが課題である。
- ・幼稚園に入る等、旧町村部も含め市全体で同じシステムの基で受け入れできるようになった点は良い。

- ・ネット社会において窓口申請の必要性が減る中、各地区に行政センターを残し誰でも相談できる環境を整備している点は良い。
- ・学生が、富山市に残っていることを誇りに思える市になると良い。

委員

- ・今後ますます人口減少が進む中、富山県は国全体より10年程度早く人口減少が進んでいる。特に大山、細入、山田地域は日本の20～30年後を映し出していると言える。
- ・市も一生懸命やっているが、我々自身が何を成して、協力しやっていくかが大切。

委員

- ・EBPM、エビデンスに基づく政策形成という考え方がある。一番難しいのは客観的なエビデンス。いろいろな施策による数値であるアウトプットの先のアウトカム（成果のもたらす変化）。今回どんな形のアウトカムがなじむかどうかはあるが、繰り返しエビデンスを検証しながら、次の政策につなげることが大切。

委員

- ・出生数の増加が見込めない中で、どのように社会増を実現していくか、県外からの移住者をどのように増やすかが喫緊の課題である。

委員

- ・合併後、中心部をはじめとしたまちなかは綺麗になったが、中山間地域の問題は変わらず残っており、どのように解消していくかが課題。

委員

- ・合併したメリットとして、新駅が常設化されたことで、定期券の補助やパークアンドライド駐車場の整備、各駅のトイレの整備も相まって利用者が増えている。
- ・デメリットは、総合行政センターの縮小に伴う周辺商店街の衰退や、コミュニティバスが自主運行になり、便数の削減によって不便になっているという課題がある。

事務局

- ・本検証は前市長からの引き継ぎ事項であり、新市長の下で検証してほしいという申し送りがあったものである。合併から17年経ち、検証データの収集にも苦勞している。また、当時合併に携わっていた職員が定年を迎えるなど当時を知る職員数も減ってきている中で、1年かけて様々なデータを収集してきた。本日提示した資料に盛り込めなかった部分もあるが、いただいたご意見も参考にまとめていきたい。

委員

- ・市街地と中山間地がお互いに補完し合う形を作ること、また持続可能な地域を作ることが市町村合併の一つの目的。
- ・中山間地に住んでみたいという県外からの移住希望者もあり、人口をより増やすための方策が必要。

委員

- ・行政と地域が一体となって、人口減少を抑える施策を進めていきたい。
- ・合併により消防分遣所の設置や救急車の配置が進んだことはメリット。
- ・総合行政センターから中核型地区センターとなり、地域の総代など高齢の方が多く、他の行政サービスセンターまで行くことに不便さを感じている。以前は役場に言えばすぐに対応してもらえたが、合併してから縦割りになった印象。

委員

- ・合併して良かった点は、地域ぐるみで子供たちの安心安全を見守れるということ、また公民館等を活用した各種活動をそれぞれの地域で行っていることである。

委員

- ・人口が増加している地域と、そうでない中山間地域の両方がある。
- ・人口を増やすために、県外から企業を誘致して、移住に繋げることが必要。

委員

- ・過疎地域には都市にはない価値があり、それをいかに発揮するかが大切。
- ・行政には大規模な合併をした責任があり、地域固有の問題を解決することも考えていく必要がある。

委員

- ・生産年齢人口が減るということは、納税者が減るということであり、人口減少に伴う行政の在り方を検証することも必要。地域と行政の繋がりや、どの程度のサービスまで提供すべきなのか。

委員

- ・地域の中で、それぞれの特色、誇れるところ、大切なところがある。それならば、アンケートなどで、住民の人に聞いていただいて、そこはできるだけ責任をもって、ある程度行政としてやってもらいたい。
- ・何が自分たちでやれるかを行政と一緒に考えて、もう17年経つので、旧とか新とかそういう意識をできるだけなくすようなサービスを考えていったらいいのではないか。

委員

- ・市町村合併でよく指摘されている期待されていた効果、規模の経済みたいなものが発揮され、職員の総額が少なくなり、より専門的なサービスにも対応できるようになるなど、どのような効果を発揮しているという視点から整理していくと見やすいものになるのでは。
- ・合併の懸念される点について、これまでの市の事業というのは、どのような形で評価できるのか。
- ・市の財政指標について、実質公債費比率や、将来負担比率であるとか、中核市と比べると少し高めの数値になっている説明があれば、財政運営がよりわかりやすくなる。
- ・ストックのマネジメントがこれから大事になってくる。富山市においてはそのようなところを今後どう整理、あるいは展開されていくのか。市民の利便性と将来負担、将来の持続可能性を担保していくかという視点から整理していくことが大事。
- ・市と連携している様々な組織について、一体感は深まっているのか、課題はあるのか、評価する点はあるのか。

委員長

- この20年間に、公共施設がどうやって整備されてきたかということも検証しなければならないが、今後の維持管理を考えていくことが重要。
- 今までの元気な固定資産税豊富な富山市というところの今後の維持も考えつつも、今後の財政基盤とそれに応じた歳出の在り方も合併の検証の切り口でみていけたら。
- 全体の合併効果について言うと、消防の一元化、公共料金、上下水道を統一など、市としてしっかりとしたサービス体制の整備もあり、しっかり検証していく必要がある。
- 今後は、交通量がそこまで増えないこともあるかもしれないので、これまでのまちづくり、これからのまちづくりを検証するべき。
- 合併の検証は、最終的には人口動態、産業構造、地域構造の問題であり、この点を皆さんと今後検討していきたい。

7 閉会

以上

富山市市町村合併検証委員会委員名簿

16名

No	区分	氏名	役職	備考
1	委員長	辻 琢也	一橋大学大学院法学研究科 教授	
2	副委員長	中村 和之	富山大学 副学長	
3	委員	石動 瑞代	富山短期大学 幼児教育学科 教授	
4	委員	尾畑 納子	富山国際大学 名誉教授	
5	委員	久保田 善明	富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 教授	5/27欠席
6	委員	高木 繁雄	富山商工会議所 会頭	
7	委員	高城 繁	富山市社会福祉協議会 会長	
8	委員	高橋 明	日本政策投資銀行地域調査部 部長	
9	委員	宮口 侗廸	早稲田大学 名誉教授	
10	委員	北岡 勝	富山市自治振興連絡協議会 会長	
11	委員	長澤 邦男	大沢野地域自治振興連絡協議会 会長	
12	委員	山森 潔	大山地域自治振興会連合会 会長	
13	委員	中井 義則	八尾地域自治振興連合会 会長	
14	委員	茗原 勉	婦中地域自治振興連絡協議会 会長	
15	委員	山田 憲彰	山田地域自治振興会 会長	
16	委員	江尻 裕亮	細入自治会連合会 会長	
	オブザーバー	滑川 哲宏	富山県地方創生局市町村支援課 課長	